



学生会新役員



冬季球技大会



吹奏楽部定期演奏会

特集 学科再編	2・3
シリーズ 卒業を控えて	4・5
シリーズ 人物・いま	6・7
2015アラカルト	8・9
シリーズ 研究室訪問	10
シリーズ 企業訪問	11

目次

ロボコン/プロコン/専攻科研修旅行	12
デザコン/冬季球技大会	13
新学生会/学生会役員研修	14
有明寮だより	15
トピックス/編集後記	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年・組)

特集

「進化する有明高専 学科再編」

出席者 学科再編等特別委員会委員長 教務主事 氷室先生
 同 委員 メカニクスコース M科 南 先生
 エネルギーコース E科 石丸先生
 情報システムコース I科 嘉藤先生
 応用化学コース C科 田中先生
 環境生命コース C科 出口先生
 一般教育科 G科 村岡先生
 司 会 建築コース A科 松岡



司会 本校は今年4月から創造工学科に生まれ変わります。新しい有明高専にするため、これまでに議論を重ねてきました。本日は、学科再編等特別委員会の先生方から新しい有明高専の魅力についてお話を伺いたいと思っております。

まず、委員長である教務主事の氷室先生から学科再編に至った経緯についてお話をしてください。

氷室 21世紀に入り、大手銀行の破綻、大型流通業の倒産、大手製造業の混迷、第1次産業の衰退、中小企業の倒産、商店街の衰退など、深刻な状況を挙げれば枚挙に暇がありません。一方で、世界規模のスタンダード化が進行していますが、21世紀は本物の「人間」と「技術」が真に問われる時代であると思っています。この21世紀における高専の役割と使命は、これらの国難を救命する一翼を担う機関となることにあると考えています。

こういう時代の技術者にとっては、仕事においてアイデアと個性を発揮することが要求されるとともに、個別の企業に長く留まることが崩れる流動とリストラが押し寄せています。技術者個人にとっては、どこの大学を出たかという学歴ではなく、どのような資格を有し、最先端であり続けるための教育をどのように受けて力をつけているかの「継続教育」が重要になっています。

このような変化に対し、高専が旧態依然でよいはずがありません。21世紀をリードする産業に本校が対応するために学科再編に至ったわけです。

司会 次に、新しい有明高専の魅力についてお話を伺いたいと思いますが、各コースについては後ほどお話していただきます。その前に、氷室先生に全体的な魅力を語っていただけないでしょうか。

氷室 新しい創造工学科の大きな魅力は、「産業界における産業技術の融合化や複合化」、「グリーンイノベーションやライフイノベーション」、「高齢化が進んでいる地域の課題解決」などこれまでなかなか対応できていない課題に答え、地域や産業界との連携を深めつつ、社会や企業のニーズを踏まえた学科になっていることです。

また、「自立心の不足」、「知的好奇心の低下」、「想像力の低下」、「思考力の低下」などの問題を解決する主体性と能動性を備え、思考力によって自らの認識を鍛え、社会的・公共的な責任感と使命感をもって行動する人材を育てるような教育が展開できるようになっています。

もちろん、国際的に活躍できる学生を育てることで、異なる価値観を理解・尊重し、多様性開かれた志向性とコミュニケーション能力を持つとともに、世界と他者との係わりで自己の位置を測定するような自己相対性を備えた人材を育てようとして工夫しています。

司会 それでは、新しいコースの魅力を先生方に伺います。

南 カリキュラムの点から言えば、主に4つの魅力があります。第一に、2年後期から3年生で実施する実技主体のものづくり基礎Ⅰとものづくり基礎Ⅱでは、従来の機械実習の内容+ものづくりを進める上で必要な計測・測定技術を習得できます。第二に、2年後期と3年生の機械基礎製図では、手描きによる基礎からSolidworks (CAD) の中級レベル程度の内容を学習することができます。第三に、4・5年生での設計演習、専門工学実験では、CADによって設計したものをNC機械、多軸マシニングセンタ、産業用ロボット、3Dプリンタなどを用いて製作・加工することで最先端技術が習得できます。最後に、4年生後期から卒業研究が設けられ、さらに5年生での卒業研究の時間が増え、充実した研究体制を整えることができます。もちろん、これらを達成するための座学専門科目もアクティブラーニング、系共通や複数コース同時開講科目などの横断的教科を導入して効率的な授業を行う予定です。

石丸 エネルギーコースでは、世界的な関心事であるエネルギーや環境について、電気工学分野を軸に学ぶことができるようになっています。これはコースの特徴であり、これらを身に付けることで、卒業後は、新エネルギーの開発や省電力化のためのエレクトロニクス技術の開発などに携わり、ワールドワイドに活躍できる可能性を持つ分野であることは一つの大きな魅力になると思います。

嘉藤 情報システムは私たちの生活の身近なところにあります。例えば、小さなシステムではパソコンやスマートフォン、そのなかで動くアプリ、大きなシステムでは銀行のATMシステムやインターネットの検索システムなどもそうです。情報システムコースではコンピュータのハードウェアからソフトウェア、そしてシステムについて体系的に学ぶことができるのが魅力です。演習や実験も充実させました。このコースを卒業すると将来は、人の役に立つ情報システムを設計・構築・運用する仕事などに就くことができます。

田中 これからは知識となる情報を入手したり、活用したりする方法を修得することが重要だと思うので、はじめに学習の仕方を学ぶ「アカデミックスキル」を導入し、コアとなる化学系科目は基礎的なものを中心に絞っています。実験科目では、一つの実験のなかで幾つかの分野を平行して行うことで、知識の修得と実際の体験とができるだけ同時にできるようにしています。当然、化学の知識だけでは他分野の技術者と協働することができないので、系の主体となるエネルギー、環境に加え、材料、機械、電気の基礎工学科目も修得します。また、グローバル化に対応し、最新技術動向に対応できるよう、専門の化学英語を取り入れているのも特徴です。

出口 化学や生物の専門知識を基に生命現象や環境について学ぶコースです。これまでの物質工学科生物コースに比べて生物系

の教員も増えるので生物系の専門科目が増え、より深いバイオテクノロジーが学習できます。

司会 建築業界で仕事をしていく上で建築士の資格は必須ですから、現状と変わらず、その受験資格をもって新しいコースを卒業できるように考えています。これに加え、これまでに開講していなかった福祉関係の授業があること、低学年に建物に親しむことができる科目があることなどが、建築コースの魅力の一部だと考えています。

司会 さて、創造工学科では入学してから1年半の間が共通教育の期間であり、このことは学科再編の目玉の一つになっています。この期間での一般科目にはどのような魅力がありますか。

村岡 入学してから1年半の一般科目の授業には大きな変化はなく、より適切な配置を目指し一部の科目で履修学年の変更を行いました。4・5年生では、一般教養系選択科目を学年に関係なく履修できるようになっています。これにより高専生が弱いと指摘されている一般教養の充実に繋がることを期待しています。

一般科目とは直接関係しませんが、今回の学科再編に伴うカリキュラムの見直しにより、週に1または2回は14時半に授業が終わる日ができます。学生がこの時間をどう有効利用するかは未知数ですが、学科再編により生み出された時間は魅力の一つではないかと考えています。

司会 新しいコースを考えて、つくりあげていく上で、いろいろご苦労があったと思います。いかがでしょうか。

南 再編の会議では、カリキュラムや規則、行事等、色々なことを見直し、検討し、審議しました。そのことを学科教員にできる限り分かり易く説明をして、理解と協力を得ることに苦慮しました。

嘉藤 コースの科目構成、学年配置、単位数を考えるのにかなり時間を使いました。学科共通科目、系共通科目があるなか、コースとしてどう特色を出していくかにも頭を悩ませました。

田中 どのコースも同じだと思いますが、高専機構が主導するモデルコア・カリキュラムや、学位授与機構で学位を授与するための科目、JABEE目標を満たすための科目など、科目構成にしがかりがあり、それを満たしながらカリキュラムを組み立てるのが一番大変でした。

司会 これまでのように専門学科を決定せずに入学してくる新生生に対して、期待や希望等がありますか。

南 手先が器用でなくても、ものづくりに興味があり、積極的に行動を起こせるような中学生に入学してほしいと思っています。そして、入学してから1年半の期間に自分の進みたいコースを見定め、実現に向けて努力し、コース配属後はより専門的な知識・技術を身に付けてほしいと思います。

石丸 コース選択の前の1年半で、いろいろな技術分野の情報をしっかりと吸収して、「これだ!」と思うことを見つけてほしいです。

嘉藤 各コースの内容には互いに関連性があります。例えば、福祉機器にはメカニクスや情報システム、住環境には建築や情報システムなどが関係します。コースは違っても異なった立場から携わることができるので、そのような視点からもコースを選んでほしいです。

田中 自分の専門科目を決めるのは入学してからになりますので、興味を幅広くもっておいてほしいです。それから、挨拶をする、一夜漬けでなく日頃から勉強する、宿題を提出する期限を守るなど、生活習慣をきちんとしておいてほしいと思います。

出口 生命現象を理解することは自分自身のことを知ることでもあるので様々な生命現象に興味を持ってもらいたいです。また、実験や研究では生き物を扱うので、毎日コツコツと実験できる学生を期待しています。

村岡 入学時には専門は決まっていますが、多くの新生生は希望の専門分野を持っているのではないかと思います。できればその希望の専門分野に拘らず、1年半の共通教育の期間で工学全般への興味を持つようになってもらいたいと思っています。

司会 これまでにお話にも関係してきますが、新しい本校に入学した学生はどのように成長してほしいと願っていますか。

村岡 先ほども述べましたが、新しいカリキュラムにより今までよりも時間的余裕が生まれると思います。これまでの有明高専生の多くは物事をじっくりと時間をかけて考えるということを選んでいる、または苦手にしているような気がしますので、じっくりと時間をかけて考える習慣を身に付けてほしいと思っています。

石丸 専門分野だけに拘らず、いろいろなことに興味を持って積極的にチャレンジしてほしいと思います。また、工学に共通する基礎についても、低学年のうちにしっかりと身に付けてほしいと思います。

出口 生物系の実験は微生物などを利用しますが、命を扱っていることを理解でき、バイオテクノロジーの専門知識を生かして様々な分野で活躍できるように成長してもらいたいです。

司会 先生方の願いを現実のものにするためには、この学科再編がうまく進んでいくことが不可欠だと思います。そのためには教職員全員の協力は当然でしょう。このほか、学科再編が順調に展開していくための課題や工夫はありませんか。

氷室 独立行政法人化によって、高専と高専教職員は、業績における質の向上と効率化、予算削減下での外部資金の確保が要求されるようになりました。この変化によって、高専とその教職員には、従来にない混乱と混迷がさらに深まっています。まじめに教育と研究、そして地域貢献の仕事に取り組んできた高専教職員にとって、これらの課題を解決することは容易なことではありませんが、同時に、それに打ち勝つ思想と行動力で、それらの課題に立ち向かうたくましさ新しい学科では重要であると考えています。

南 新しい教育が実現できるような教員の配置や採用などが重要であり、また、教員教育・研修なども必要と思われます。また、ホームルーム用あるいは系共通、複数コース授業等に対応できる大規模教室を確保するための改修工事、既存の設備を効率的に利用できるような工夫も必要かと思います。

石丸 課題としては、新しく実践創造型の授業科目も導入されるので、ハード面とソフト面の両方の準備が必要になってくると思います。それから新しいカリキュラムと上手く接続できるように、専攻科のカリキュラムも見直す必要があるでしょう。

田中 全学で1学科になり、共通の科目も増えてきましたので、あまりコースにとらわれず、全体的に考えることが必要だと思います。そういう部署をつくるのもいいかもしれません。

司会 最後になりますが、委員会の責任者としての立場から氷室先生にこの学科再編に対しての意気込みを伺いたいです。

氷室 少子高齢化などどんな状況下においても、国民のために魅力ある高専を持続的に発展させなければなりません。それを実現するためにやるべきことは、「国際的に通用する、創造性豊かで、優れた人格を有する技術者を育てること。」「地域社会の産業、文化、生活を支えることによって地域貢献を果たすこと。」「開発型の教育研究を行うことで高専が日本の代表的技術者を養成する高等教育機関となること。」であると考えています。

学生の心に高専の火をともしことに留まらず、教職員の心にも高専の火をともしことで、これらの目標を達成し、日本の技術ポテンシャルを高めていきたいと考えています。

司会 冬休みが終わって授業が再開されました。4月1日までの時間は少ないですが、できる限りのことを成し遂げてその日を迎えられるよう努力していきましょう。本日はありがとうございました。

シリーズ 卒業を控えて



卒業を控えた5年生の皆さんに、高専時代の思い出など、自由に語っていただきました。(H27.12.16)

5M 今村 匠(学生会長、バスケット部/株式会社シマノ)

5E 齋藤 孝一(バスケット部/専攻科進学)

5I 甲田 芹佳(女子応援団長/キヤノン株式会社)

5C 田中 由伽子(女子バスケット部キャプテン、女子応援団長/株式会社明治)

5A 三栗野 鈴菜(天文部、ダンス愛好会、英語研究部/千葉大学進学)

司会:G科 嘉藤 直子

司会 今日は、年末のお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。最初に、皆さんの名前、学科、課外活動、進路などを教えてください(上記のとおり)。それではまず、高専生活の中で最も印象に残っていることを教えてください。

今村 入学したばかりの頃、みんなについていけないと思ったことが印象に残っています。あと、学生会長になって、渉外など、いろいろな経験をさせてもらったことも思い出として残っています。

齋藤 部活動が印象に残っています。バスケットボール部に初心者で入って、最初はいけるかなと思いました。しかし、全然うまくならず、途中でやめようと思ったりもしました。だけど、最後まで続けることができました。5年間、続けられて良かったです。

甲田 体育祭ですかね。応援団で、女団長として上に立たせてもらって、後輩とも仲良くなれました。情報は結果としては最下位だったけど、結果は関係なく楽しかったので、良かったです。

田中 私も部活ですね。3年生のころから2年間、キャプテンをやらせていただきました。チームのためになったかどうかは分からないけど、自分としてはとても成長できたと思います。



A 三栗野さん

三栗野 私はコンペティションに作品を出したことです。先輩たちが誘ってくれたことがきっかけで、3年生から始めました。5年生まで続けましたが、今は後輩たちを巻き込んで作品を作り上げることができたことが一番印象に残っています。

司会 いろいろ活躍されていてすごいですね。お話を伺っていると、皆さんは上の立場でまとめるとか、後輩を育てる立場に立たれているようですが、難しかったことや良かったことを教えてください。

齋藤 バスケットでポジションごとに分かれて練習するときに、みんなにやる気を出させるのが難しかったです。でも、不器用ながらも、みんなを励ましながらか、何とかまとめることができて良かったです。

甲田 上に立つと、誰かと必ず衝突するよね。その時に、どう対処するかが難しいよね。

三栗野 応援団だと、上級生どうしが衝突するよね。でも、うちは後輩が助けてくれたよ。

甲田 私は思ったことをすぐに言いたいタイプ。だけど、言おうとしたらまわりに止められました。私が思ったことを全部言ってしまうから、それは危ないと言ってまわりが止めてくれました。おかげで、私は我慢できました。上の立場に立つ人は、我慢も必要だと思いました。

田中・三栗野 そうそう、我慢をがんばったよね。

甲田 それと、まわりに助けられたというのは大きいですね。

何かを考えるにしても後輩に教えるにしても、絶対一人ではできません。自己中でひっぱっていただけでは、みんなはついてこないよね。



C 田中さん

田中 そうだね。バスケットという競技の性格上、メンバーには気の強い人や元気のある人が多かったの、それをまとめていくのが大変でした。でも、キャプテンとか女団長とか役職についていると、全部自分がやらなければならないと思っていたけど、案外まわりのサポートが必要だし、みんなもよく助けてくれるから、一人で頑張らずに頼っていいんだなと思いました。

今村 私は学生会長として校外に出ることも多かったのですが、異業種の方で年齢層もまったく違う方々と話す機会がよくありました。その方々といろいろな話をするのができて、自分自身、成長することができました。

司会 皆さんは、インターンシップとか就活などで企業の方々に会っていると思うのですが、その経験から、高専在学中にどんなことを勉強したり、身につけておけばいいと思いますか？

甲田・田中・三栗野 コミュニケーション能力。それしかない。



I 甲田さん

甲田 情報とか特にそういうのが苦手な人が多いので、1年生の時から本当に直したほうがよいと思います。イベントとか行事などに積極的に参加したり、先輩や後輩と仲良くすることで学ぶといいかもしれません。

司会 コミュニケーション能力以外には？

田中 敬語が使えるほうがいいと思います。

今村 勉強は全部大事だと思います。あと、自分が伝えたいことを、うまく相手に伝えることができる能力かな。私は、就職試験の面接のときに、最初は堅苦しくなっちゃったけど、それがだんだん崩れていって、最後には自分が伝えたいことを熱弁していました。その結果、合格していました。

司会 高専5年間で自分が一番成長したなと思うことを教えてください。

甲田・田中 自分の思いを、人前で上手に話すことができたようになったことです。

甲田 自然と専門知識が身につく、例えば、ニュースなどを見ていて情報系の単語が出てきた時に、親から「これ何？」と聞かれても、すぐに答えられるようになっていきます。少し親の上に立てた気になって気持ちがいいです。

田中・三栗野 ある！

司会 高専5年間でやり残したな、やっておけば良かったなと思うことを教えてください。

甲田 1年生の時から、男女仲良くしておけば良かったなと思います。仲が悪かったわけではないけど、お互い無関心でした。その時から仲良くしておけば、もっと楽しかったと思います。

司会 何年生の時から仲良くなったのですか？

甲田 混合学級終わって、3年のときに懐かしいと思いました。

司会 どの学科もそうなんですか？

田中・三栗野 私たちは最初から仲が良かった。

三栗野 私は先輩たちにもっと話を聞いておけば良かったと思います。特に5年生になった時に、聞いとけば良かったと思う場面がたくさんありました。高専祭や応援団のこと、また、建築で作品を作る時に、ソフトの使い方とか図面の書き方とかもっと教えてもらえば良かったなと思います。また、先輩たちの作品をもっとしっかり見ておけば良かったなと思います。先輩たちともっと早くから仲良くなっていたら良かったなと思います。

田中 私は、部活や応援団や高専祭など積極的に参加していた方だし、A-Tech.にも参加していたので、もっと違う学科の人や違う学年の人と仲良くなれるチャンスがあったはずなので、少し残念に思っています。

甲田 私も自分の学科の先輩とばかり仲良くしていたので、他の学科の先輩たちとも仲良くしておけば良かったと思っています。



齋藤 勉強していたほうが良いと思います。自分は3年生のころまで就職希望で進学のことを考えていませんでした。だから、成績も優だったらいかな、という程度で手を抜いて勉強していました。でも、4年生になって進学したいと思って勉強し始めたんですが、

大学編入の推薦を受けるにはいろいろ基準があり、例えば、上位5%という基準では、40名のクラスで2位までに入らないといけません。もっと前から勉強していれば推薦がとれたかもしれないと思って残念でした。だから、当たり前の話ですが、進路の希望にかかわらず、低学年の時から気を抜かず勉強をしておいたほうが良いと思います。あと、TOEIC。就職したとしても、企業によっては何年以内に決まった点数を取らなければ昇給できないというところもあるし、進学すれば、それこそ点数が必要です。大学によって基準の点数があるし、英語は少し勉強したからといってすぐに点数が伸びるものではないから。だから、前からやっておけば良かったなと思います。

今村 いろいろやらせていただいたのでやり残したことはありません。あえて言う、球技大会の晴れ競技ぐらいかな。

齋藤・甲田・田中・三栗野 あははは(笑)。それはあるある。

今村 これまで10回、球技大会に参加しました。でも数えたら、晴れ競技は3回だけで、7回は雨が降っているんですよ。だから、晴れ競技をしたかったですね。また、もっと学生会活動を活発にすれば良かったなと思います。

司会 後輩たちにメッセージをお願いします。

田中 つらくても部活は5年間続けたほうが良いと思います。つらいことがたくさんあっても、5年間続けて引退することで、最後には嫌な思い出もすべて良い思い出として残りました。また、5年間続けることができたという自分の自信にもなりました。

齋藤 田中さんも言いましたが、部活は続けたほうが良いと思います。バスケはチームスポーツで、みんなで練習して、試合では負けたら悔しい、次は勝ちたいという気持ちがあるじゃないですか。社会人になってもスポーツはできるけど、なんていうか熱量が違うというか。学生のスポーツの方が喜怒哀楽がより大き

いと思います。



今村 毎日部活やる分だけ、熱量というか思いが違うんですよ。社会人になると、週1回とかで、しかも知らない人とかも来るけど、学校の部活とかだったら、毎日顔を合わせている人たちとやるから、それだけ良い経験ができると思います。

三栗野 もうちょっと外に出たらいいことがあるよと後輩たちに伝えたいです。私は、学校の中に閉じこもるだけでなく、地域の人など学外の人と関わることも必要だと思います。このような方々と話すことで、自分の価値観が変わったなと思うこともありました。私は、学外に出た時には、相手に自分の名前を覚えて帰ってもらうことを目指しました。自分の名前が三栗野なので、覚えてもらいやすいこともあるのですが、自分で作成した手書きの名刺を渡して、「三栗野って言います。どういうことをしているんですか?」「私はこういうことをしているのですが。」と会話をすると、「あの人に聞けばいいよ。」など、人が人をつないでいってくれたりもしました。このように人脈が広がることによって、学校生活がさらに楽しくなりました。

今村 機械科のことだけしかわからないけど、他の学科も同じように、レベルの高い授業を受けていると思います。でも、その割に、授業料は安い。他の学校で同じようなことをしようとしたらもっとお金がかかると思います。このように考えたら、安くて、質の高いことが学べるという充実感が最近分かってきました。後輩たちにも早くそれに気づいてほしいと思います。

甲田 学生のうちにしっかり遊んで、友達との付き合いを大事にしてほしいです。もちろん、勉強も大事だけどね。友達付き合いを大事にしていると、学生時代は何倍も楽しくなるし、自然とコミュニケーション能力もついてくるから社会に出てからも役に立つと思います。



司会 最後に、自分の人生の目標、もしくは、卒業後にやりたいことでもいいです。これから先の話を聞かせてください。

甲田 「高専卒で就職しても、大学卒には勝てない」という考えが定着しているみたいなので、学歴とか関係なく、社会的にのびりつめたいと思います。大学卒や大学院卒の人たちに負けたくないです。「高専卒もやるな」とまわりに認められるようになります。

三栗野 今まで九州内で行動することが多かったのですが、4月からは千葉に行くので、まずは広く日本のことを知りたいです。今一番行きたいのは東北地方で、九州とはまた違うことが学べたり、違う感性を身につけることができると思うからです。将来は日本一周旅行をしたいなと思います。

田中 私も日本各地や海外に仕事や旅行で行きたいです。いろいろなところで働きたいな。そして、結婚して温かい家庭を築きたいです。そして、穏やかに暮らしたいです。

今村 就職して、日本で技術などをしっかり磨いてから、海外に行きたいです。就職先の会社は海外にも支社があるので。現地で、技術やスキルについて話したりできればいいなと思います。

齋藤 大学へ編入して自分の幅を広げたいと思っています。同じ作業を繰り返すような仕事より、新しいものを開発したいと思っています。研究職につけたいなと思います。

司会 皆さんのご活躍を期待しています。今日は、いろいろなお話を聞かせていただきありがとうございました。

シリーズ 人物・いま

退職教職員

平成28年3月をもって退職される5名の教職員に、次の3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは？ Q2 高専あるいは学生に望まれることは？ Q3 今後のことについて一言



電気工学科 教授
永守 知見

- A1 40年間、若い学生の皆さんと一緒に有明高専で過ごせたことに感謝しています。楽しい思い出がたくさんありました。一番の思い出は5年の担任として卒業生を送りだせたことです。たった一回しか5年の担任ができませんでしたので、強く思い出として残っています。
- A2 今しかできないことをしっかりやってほしいと思います。基礎学力を蓄え、本を読み、教養を身に付けてほしいと思います。感受性の豊かなこの時期に本を読むことは、とても大事なことです。
- A3 定年退職は生活に区切りをつけるいい機会だと思います。身の回りのさまざまなモノの片づけ、断捨離を実行したいと思います。平成27年の流行語に「ミニマリスト」という言葉がありましたが、ここまでは無理としてもせめてスッキリとした生活ができるよう、身辺整理に励みます。



物質工学科 教授
宮本 信明

- A1 色々ありますが最近のことで言えば今回の体育祭です。バックボードに私の似顔絵を描き、打ち上げでは、私の胴上げまでしてもらい、記憶に残る体育祭でした。最後の年に5年物質工学科の担任をさせていただきました。
- A2 本校の学生は、本気で頑張れば何事でも伸びる可能性のある人が多いです。自信を持って、努力を惜しまず色々な面でもう少し頑張ってもらいたいです。
- A3 来年度は再雇用で、本校にお世話になります。その後のことは、これからゆっくり考えます。健康面だけは気をつけたいです。



建築学科 准教授
鎌田 誠史

- A1 科学研究費(科研)での沖縄を中心としたアジアの集住環境の研究や産官学連携による大牟田市の空き家活用の共同研究などを学生と一緒に実施できたことです。冬の寒い日に学生とともに大牟田市の空き家実態調査(約3,000件)をしたことが印象に残っています。
- A2 有明高専の学生は優秀だと思います。しかも素直です。あとは視野をできるだけ広く持って自分の頭で考える力を磨けばどこにいても通用すると思います。頑張ってください！
- A3 皆様に支えていただいたことに感謝し、来年度からは関西で大学教員として教育・研究・デザイン活動に邁進したいと思っています。関西から有明高専の発展をお祈りしています。



技術教育支援センター 技術長
河村 英司

- A1 ロボコンはもちろん、ソーラーボート、エコランなど初出場の時から学生と一緒にやることができ、本当に楽しい時間を過ごすことができました。また、ロボット大蛇プロジェクトで一年間かけ製作したロボ大蛇がJR大牟田駅での記念式典で無事に動いてくれた時はほっとしたと同時にすごい感動と満足感があつたことを思い出します。あれから十年以上止まらずに動いていますが、皆さんも機会があったら大牟田駅で是非観てください。
- A2 ・いい加減だと言いつける。 ・中途半端だと愚痴が出る。 ・一生懸命だと知恵がでる。勉強、部活、何事にも一生懸命頑張って悔いのない学生生活を送ってください。学生の元気な挨拶でパワーをもらいました。ありがとうございます。
- A3 4月からまた再雇用で有明高専に来ますが、ゆりの時間が増えそうです。好きなゴルフや読書の時間を増やして、ゆつりのんびりと過ごせればよいなと考えています。

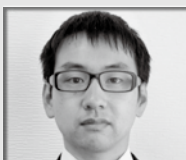


学生課 課長補佐
中川 日出光

- A1 昭和57年12月に熊本電波高専から異動して、途中2年間久留米高専へ人事交流で行きましたが、有明高専での31年間本当にお世話になりました。この間、昭和58年の学校創立20周年記念式典の挙行。20歳になり益々発展を予感させる式典で、20周年記念歌の制定、記念モニュメントの作成が行われました。30周年では、同窓会の協力により学生の集い処「友夢創家」が完成しています。40周年は、本来ならば11月に実施の予定が、当時の校長部長、後援会等の話し合いで「10年後の50周年を盛大に行いましょう。積立はその時まで続けましょう。」となり、総合研究棟の竣工に合わせ4月に慎ましく行われた。50周年については2年前のことで皆さんの記憶にあるかと思いますが省略します。こういった節目節目で仕事をさせていただき感謝の一言です。
- A2 有明高専は4月から大きく変わります。伝統を引継ぎ新しい有明高専を作っていくってほしいと思います。
- A3 退職後の予定は、嫁さんが元気になったら、究極の贅沢船の旅を計画したいと思っています。追伸 4月からパート職員としてもうしばらくお世話になります。

人事交流教員

今年度、人事交流教員として赴任された2名の先生方に1年間の感想を伺いました。



機械工学科 助教
南山 靖博

1年間と短い期間でしたが、有明高専では大変貴重な経験をさせていただきました。私は広島県の呉高専を卒業しており、呉高専と有明高専とは同じ所が多く、有明高専に来て懐かしく感じました。それは、建築学科が有り、機械がM・建築がAと表記されることが、各学科それぞれの棟があり、3年以上の教室はその棟の中に配置されていること、1日の授業が50分×7限であることです。久留米高専と有明高専とは、これら以外にも違いが有り、同じ福岡県の高専でも全く違う学校だと思いました。

また、有明高専ではネット環境が充実していることに感心しました。校内無線LAN設備やRainbowMagic・電子掲示板、出張申請や購入依頼のペーパーレスなど、久留米高専でも取り入れていきたいと思いました。

最後に、有明高専の皆様方には温かく接していただき、心よりお礼申し上げます。



電子情報工学科 准教授
桐本 賢太

北九州高専より1年間の人事交流で有明高専へ参りました。4月の入学式や新入生歓迎行事に始まり、早1年が経とうとしています。講義や実験では学生の皆さんならびに教職員の皆様にご大変お世話になりました。また、長期見学旅行、大蛇山祭り、ロボット大会、体育祭など多くの学校行事に参加させていただき、楽しい思い出を作ることができました。このような体験ができたことに大変感謝申し上げます。部活動に熱心に取り組む学生、学生会やクラス代表、寮生など、学生一人一人の頑張りに心を打たれました。研究活動においても5年生の協力で大きく前進させることができました。北九州へ戻った後も、有明高専で得た人的ネットワークを大切にしたいと思います。

最後に、お世話になりました皆さまのご健勝とご活躍、有明高専の益々のご発展をお祈り申し上げます。

永年勤続表彰

永年勤続20年の6名の教職員の方に、思い出などをお聞きました。

Q1 20年間の一番の思い出 Q2 20年前と今について Q3 学生に一言



一般教育科 教授
西山 治利

- A1** 20年間の一番の思い出は、この学校で出会ってきた多くの人たちでしょうか。学生さんや教職員の方や、10年前は八代高専（現在、熊本高専八代キャンパス）に赴任してましたので、そこで出会った方々です。その中でも、当時八代高専の野球部監督だった本田光盛先生とその部員たちとの出会いにより、高校野球の熊本県大会でシード校を破るという経験をさせてもらい、その経験から有明高専でもシード校を破るという経験と高専大会優勝という経験ができました。
- A2** 20年前は、まだ大学を出たばかりで、学生さんとの年の差もあり感じていませんでした。敬語で話されることに違和感を感じていましたね。今では、二人の子どもがいて、その子たちの成長とともに、自分自身も人として成長できているのかなと感じています。あとは、情報社会が急速に発達して、取り残されていると感じています。
- A3** 今からみなさんは多くの方と出会っていくと思います。その方々とのご縁を大切にできる人になってほしいと思います。人を大切にしていると自分が困ったときに助けていただけたらと思います。ただ、ずる賢い人もいますのでそういう人には十分注意して、幸せな人生に向かって精一杯頑張ってください。



一般教育科 准教授
田中 彰則

- A1** 20年前、職に就いた次の日に長女が誕生しました。覚えてることそのものがあまりないのですが、この日のことは何故か覚えてます。
- A2** 21年前はウエイトトレーニングを頻繁にやっていた、ベンチプレスでは110kg位をあげることができました。今は頑張っても80kg位でしょうか。鏡に映る体形が随分と変わりました。
- A3** 数学を担当していますが、研究は物性理論をやっています。研究を懸命にやっていると、新しいことを見つけないという幸運に恵まれることがあります。このとき、その事実を知っているのは人類の中で自分だけなのです！すごく興奮しますよ！！アドレナリンも沢山でます！！多分、スマホの中を見ているそんな経験はできない。下を向いてスマホ見てないで、取りあえず、顔を上げて色んな人の話を真剣に聞いてみましょう。私も定年までに、あと2回は人の知らないことを見つけないと思っています。お互い頑張らしましょう。



一般教育科 准教授
嘉藤 直子

- A1** 以前、3年担任をした時に、最後にクラス全員から寄せ書きと花束をいただいたことが思い出の一つです。今も寄せ書きを読み返しては元気をもらっています。また、私が双子を出産して入院していた時、当時の5年生が、卒業式が終わってすぐ、振袖や袴、スーツ姿のまま会いに来てくれたことも特別な思い出です。看護婦さんが「嘉藤先生の大きいお子さんが、たくさん会いに来ましたよ～」と言って学生たちを案内してくださったことが印象に残っています。
- A2** 私自身のことですが、20年前と比べて、見た目も態度も大きくなったと周りから言われます（笑）。謙虚さを忘れないように気を付けます。
- A3** 情報の授業担当者として一言。ネット社会では、一度の失敗が一生の傷となります。子供だから学生だからといって許されることもありません。皆さん、ネット社会では特に慎重に行動しましょう！



物質工学科 教授
小林 正幸

- A1** 一番の思い出は10年前に有明高専に着任したことでしょうか。18歳の時に親元を離れて以来の大移動。九州にとんと縁がなかったため期待と不安でいっぱいでした。この世に生を受けて48年、基本的に良いことも悪いことも、みな、良い思い出です。
- A2** 家族が増えました。髪が白くなり、量も減りました。歳を感じる今日この頃です。そういえば丁度20年前、スキーで転んで靭帯損傷。今は、そんな無謀な行為ができなくなりました。良しにつけ悪しきにつけ、冒険ができなくなりました。これを機に少々チャレンジする心を奮い立たせてみましょう。
- A3** すずんで苦勞をしてください。挫折を味わうことも大切なことです。そんな経験をたくさんしてください。それらは、自らの血となり肉となり、人として強く成長させます。樂をして手に入れたものは概して恩恵を感じず、粗末に扱いますので、後々力になりません。あと、親友とよべる友達をたくさんつくみましょう。



建築学科 教授
小野 聡子

- A1** 20年間の思い出を一口で語ることは大変難しいですね。学科長・教務主事補・クラス担任と学生にかかわる仕事や、学校評価に関わる仕事にも携わらせていただきましたが、それぞれに思い出があります。専攻科棟の制震装置や学生寮の耐震改修など、私の専門を活かせる仕事もさせていただきました。また、同年代の教職員の10名前後と、夏期休業中の平日に、有給休暇を利用して呼子などに出かけたことも思い出の一つです。
- A2** 就職直前に兵庫県南部地震を経験したのち、就職直後には地下鉄サリン事件があるなど、20年前は激動の1年間だったと思います。個人的には、『国家公務員』から『みなし公務員』にか変わったことが大変大きな出来事でした。あわせて、体型ですかね（笑）。20年前とは大きく異なりますね……。比較的身長が高いため、普通サイズのスカートを着用するとスカート丈が短くなりがちで、ミニスカートを着用していると思われがちでした。
- A3** どんな仕事でも順風満帆にはいかないとします。気軽に話や相談のできる相手（老若男女）がいると良いと思います。是非、そのような相手を学内外に作ってください！



教育研究技術支援センター
池上 勝也

- A1** 2年目だったと思いますが、高専祭で展示するLEDを使用した各学科へのルート案内板の製作で、前日に泊まりこんでギリギリまで最終調整を手伝ったことが今となっては懐かしい思い出です。
- A2** 20年間でいろんなモノが増えました。家族、白髪、シワ、体重。逆に減ったモノは・・・おこづかい。
- A3** 「積小為大」二宮尊徳の言葉です。小さいことを積み重ねて、大きなことを成し遂げるという意味です。継続は力になります。一日一日を大切に過ごしてください。

留学生

卒業を控えた留学生に、思い出などを伺いました。



5C
ヒラストウメガスマナル
(ヒラス)

この学校で学ぶのはあとわずかになりました。本当に先生方や友人たちなどが支えてくれたからこそ私はここまでたどり着くことが出来ました。振り返ってみると、3年間この学校に編入学し、最初は不安だらけでした。日本に来てから日本語を学び始め、しかもたった1年間しか学ばませんでしたので、授業や生活が大変でした。しかし、先生方や友人たちのおかげで勉強や生活が徐々に慣れてきて高専生活を楽しく過ごせました。

この3年間、一番印象に残っているのは今年の体育祭でした。一昨年の体育祭はあまり活躍しませんでした。今回はマスコットをはじめ、積極的に活動しました。本番に向けて卒研しながらマスコットの練習をやり、当日、みんなと一緒に楽しく踊りました。しかも、一昨年と同じくマスコット賞も受賞し、とても貴重な思い出になりました。

来年度から熊本大学に編入学し、高専で学んだことを活かして頑張っていきたいと思っています。3年間はあっという間でしたが、この有明高専での思い出を一切忘れません。

2015 アラカルト

シンガポール・ポリテクニク校学生来校

国際交流委員会 大河平 紀司

12月14日(月)～21日(月)にかけて、本校が姉妹校協定を締結しているシンガポール・ポリテクニク(SP)校から11名(男子学生4名、女子学生6名、引率1名)が交流のため来校されました。18日(金)～20日(日)にかけて、本校在学生の自宅にてホームステイを体験し、日本の文化を肌で感じていただきました。学内では専攻科や2年生の授業参加、キャンパスツアー、部活動体験、寮生との交流など、いろいろなイベントに参加していただきました。学外では万田坑、熊本城、大観峰の見学など、シンガポールではできない貴重な体験をし、21日(月)は福岡方面の散策の後、22日(火)に帰国の途につきました。

異文化に触れることで、その人は大きく変わると言われています。本校在学中の皆さんも積極的に交流事業に参加し、さらなる成長を遂げましょう。



第47回有明高専吹奏楽部定期演奏会を終えて

3C 坂田 真奈美

1月16日(土)、私達有明高専吹奏楽部は大牟田文化会館で開催された第47回定期演奏会を無事終了することができました。昨年に引き続き、欠員が1名もいない状態でこの演奏会を迎えられたことが何よりの喜びだと思っています。

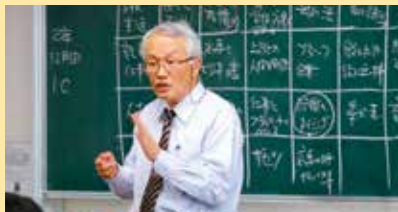
なにかと忙しい時期であるにも関わらず、毎年滞りなく定期演奏会を開催し続けられるのも、全ては学校や地域の皆様を始めとした、定期演奏会にご協力くださる方々あってのことです。9名もの5年生が今回を期に引退し、現段階において心許ない人数ではありますが、今後も後輩たちが良い経験を積めるよう、この演奏会が続いていくことを望んでいます。

最後に、今回の演奏会にご来場くださった皆様、また応援してくださった皆様へ深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



1年生進路セミナー 12月1日(火)～7日(月)

大坪 正彦氏(本校 キャリアコンサルタント)



3年生進路セミナー 10月6日(火)



M科 原田 義史氏



E科 中溝 栄次郎氏



I科 遠藤 剛氏



C科 幸田 精一郎氏



A科 重松 徹氏

4年生進路セミナー 1月18日(月)



専攻科1年生キックオフミーティング 11月20日(金)



渡辺 信幸氏(木村情報技術株)



角田 淳氏(三菱日立パワーシステムズ株)

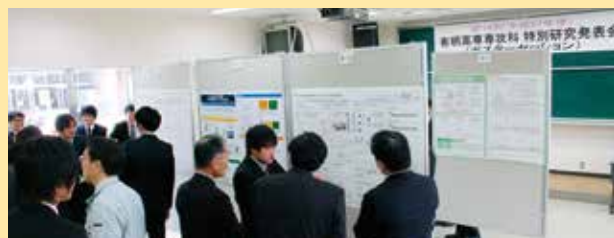
専攻科ポスターセッション

副専攻科長 石川 洋平

専攻科の重要な行事である「特別研究発表会(ポスターセッション)」が1月14日(木)・15日(金)の両日に開催されました。本行事は、専攻科2年生28名の特別研究内容を各学生がポスターにまとめて掲示・説明することにより学内外に発表し、その成果を広く知っていただくことを目的とするものです。

今回も、会場を合同教育南棟合同講義室で開催しました。また、4年目となるポスター賞を決めるためのアンケートを実施しました。

誠実に研究活動に取り組んできた学生諸君の労をねぎらうとともに、ご来場いただいた方々およびアンケートにご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。



今回は、一般教育科の西山 治利先生と電子情報工学科の松野 良信先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

西山 治利 研究室(一般教育科)

はじめに

今回研究室訪問ということで、インタビューを受けていますが、あまり研究らしいこともやっていないので、あまり良い話はできないかもしれません。ただ、最近思っていることを皆さんにお知らせできればと思います。

現在の研究テーマをお聞かせください。

研究分野としては、「統計学」なのですが、「離散型データに関するデータ解析」がテーマです。私は数学科卒なのですが、「統計学」の分野は幅広く、経済や医学、工学などの幅広い分野で研究がされています。

ただ、学生相談室に関わるようになって、「臨床心理」に興味をもつようになってきています。

この分野に興味を持たれたきっかけをお聞かせください。

九大数学科への進学を希望していたとき、高校の恩師がその九大の卒業生で九大の確率論の分野を薦めてくれたのがきっかけで、実際に入学してみても、その分野の先生(私の指導教授)に会ったときに、その先生の元で勉強してみたいと思いました。実際には、高校の恩師はその先生には指導を受けていなかったのですが、交流はあったようですので、そのような縁があったのだと思います。最近の興味は、相談室に関わるようになって、学生さんたちが悩んでいることを解決するお手伝いができないかなと思うようになったことです。

学生相談で心がけていることをお聞かせください。

「学生さんの話をしっかりと聞く。」ということを中心にしています。ただ、私自身話ばかりで、話を聞いてみると、自分の意見を言ってしまう、しっかりと聞いているのだろうかと思ってしまう。なかなか、人の話を聞くということは難しいと感じています。

新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことをお聞かせください。

学生さんのいろんな悩みに対処するための知識や技能に興味を持っています。

そのために必要なことを勉強していきたいと思っています。また、私は数学の教員ですので、数学の指導方法についても考えていきたいと思っています。

学生へのアドバイスをお願いします。

皆さんには、今から無限の可能性があります。その可能性を伸ばすためにはいろいろな苦難が待っていると思いますが、周りの人たちの力を借りながらその苦難に立ち向かってください。そういう周りの方々への感謝も忘れないでください。



松野 良信 研究室(電子情報工学科)

松野先生といえばパソコンという勝手なイメージがあるのですが、いつ頃から興味を持たれましたか？

実はあんまり「パソコン」というのには強い興味はないんですよね。(^^;)

世の中にはパソコンだけじゃなくて、機械を動かしてるちっちゃなものから携帯型端末、サーバやスーパーコンピュータ等、いろんなコンピュータがあります。コンピュータを使ってできることに興味があるってことかなあ。いわゆるコンピュータに触ったのは14~15歳ぐらいだったかなあと思います。超簡単なプログラムを入力してみたいと思います。

さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

広い意味では「情報ネットワーク」ということになります。中でも現在はネットワークを活用して、教育の支援について検討しています。少し具体的な概要としては、動画(ムービー)を扱う学習管理システムの構築と効果的な動画の配信方法、そしてその有効性等について検討を行っています。電子情報工学科の学生は知っているかもしれませんが、授業の動画の配信を行っているのも、その一環といえるでしょう。

研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

元々は企業のエンジニアを目指していました。そういう意味では研究者になりたいとは思ってませんでした。そんな時、大学の先生から有明高専の教員になって、エンジニアを育てる立場になってみないか?...という話があったのがきっかけになるでしょうか。(??)

研究で心がけていることをお聞かせください。

元々は「情報ネットワーク」の分野でも、ネットワークの通信の仕組みに関する研究を行っていました。世の中の情報通信ネットワークを取り巻く環境は非常にめまぐるしく進歩しており、高専で過ごしていくうちに、私自身の研究の内容も学生や地域の方々のより身近なものへと変化してきました。新しいテクノロジーも数多く生まれています。そんな変化において行かれないように心がけています。

新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

ちょっと曖昧な感じですが、これまではどちらかというと情報ネットワークを使って「いかに情報を伝える仕組みを考えるか」に重きをおいてた気がしますが、「どうやったら情報を伝えたい人にちゃんと伝えられるのか」を安心安全にできるようにすることを考えられたらいいかなあかと思っています。

最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

今の時期にしかできないことが非常にたくさんあるんじゃないかなあと考えます。しっかりコミュニケーションをとり、一生モノの「ヒトのネットワーク」を手に入れてほしいと思います。



シリーズ

企業訪問

—卒業生を訪ねて—

株式会社 オーレック
福岡県八女郡広川町日吉548-22

聞き手:M科 岩本 達也

今回の企業訪問では、株式会社オーレックにお勤めの荒川さん（専攻科8期、写真左）と柿原さん（専攻科10期、写真右）にお時間をいただき、近況などをうかがってきました。

岩本：初めに、貴社の事業内容や特徴について教えてください。

柿原：弊社では、環境緑化、家庭菜園、農業、園芸等のエンジン付アウトドア省力機器、いわゆる農業機械の設計開発から生産・販売までを一貫して行なっております。材料の加工から製品完成までの全てを本社工場で生産しており、エンジン以外のほとんどの部品、例えば歯車ひとつとっても材料から削りだしています。乗用型草刈機、走行型草刈機の分野では、国内シェアNo.1です。

岩本：入社されてから、これまでどんな仕事に携わられましたか？

荒川：今年で、入社7年目になります。入社当初は設計開発部で、現在は営業部に所属しています。設計開発部にいたころは、耕運機のモデルチェンジや商品展示に必要な物品の設計などを行っていました。2年目に、上司から営業部へ異動しないかと声を掛けられました。営業と聞いて、はじめは躊躇しましたが、会社に貢献できるならと考え、異動を承諾しました。営業の仕事は、主に販売店への売り込みです。弊社の製品を取り扱ってもらうために商品説明で訪問したり、展示会を開催したりしています。

柿原：現在、入社4年目ですが、これまで設計開発業務に携わってきました。数年後に市販予定機種の研究開発から、設計開発を行っています。入社当時は機械加工を含む試作が主でしたが、最近では3D-CADを用いて機械の部位毎の設計開発を行い、試作からテストまで行っています。弊社では農業機械を取り扱っていますので、テストを行う際は近くの農家さんに協力してもらったり、場合によっては東北地方まで出張して実地試験を行ったりします。

岩本：仕事をしていてやりがいを感じることはありますか。また、それはどんな時ですか。

荒川：熊本県を一人で任されているのですが、売り込みのアイデアは自分で考えています。販売店への営業だけでなく、移動の途中にある田畑を見て、売れそうな製品を考えたり、お客様の家を回って新しい製品のネタを探したりしています。いろいろと試行錯誤をして、これまで取り扱ってもらえなかった製品を採用してもらえたときは達成感がありました。

柿原：荒川さんは、2年前、営業部の優秀社員に選ばれましたよね。

荒川：あの年は、ちょうど主力製品の売り上げが好調で、熊本県の農家さんが結構買ってくれたからね。

柿原：設計開発でのやりがいを感じる時といえば、設計を行ない、試作機を製作して、思い通りの機能を実現できた時です。また、農家さんに使っていただき、作業効果に驚かれたり、農作業が楽になると喜んでいただいたりした時です。

岩本：地元の企業を選んだのはなぜですか？

荒川：地元の企業を選んだというより、面白そうな会社を選んだら、たまたま地元でした（笑）

柿原：私も同じです。それと、企業が元気だと、地域も元気になるので、地元の活性化に貢献できて嬉しいと思っています。

岩本：最後に、在校生へのメッセージをお願いします。

荒川：学生の頃に、いろいろな経験をしてほしいと思います。好きなことも嫌いなことも、くだらないと思うことでも、とりあえず経験してみることです。現在、営業の仕事をしていますが、新しいアイデアを考えるとときとかお客さんとの会話のネタとかで、困ることがあります。そんな時、いろいろ経験しておけばよかったなと思います。

柿原：今、皆さんが学校で学んでいることは、短期的に見れば必要ないと感じることもあるかもしれません。しかし、学ぶからには全力で取り組んでください。私が、開発の仕事をする上で、考えに行き詰まることがあります。そんな時、ふと閃くことがあります。その閃きは機械工学的思考に基づくものもあれば、他分野の知識に基づくものもあります。全力で学ぶことで、知識や考え方が脳に深く刻まれ、それは、皆さんが社会に出た時、壁にぶつかった時に、きっと手助けしてくれるはずです。勉強、部活、学生会活動など、学校でしか得ることができない知識や体験は皆さんの周りにたくさん転がっています。一つでも多く拾ってください。そして、その一つ一つに全力で取り組むことで皆さんが活躍できる場所が大きく広がります。将来、各分野で活躍される皆さんとお会い出来ることを楽しみにしています。

岩本：本日はお忙しいところ、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



ロボコン地区大会を振り返って

Aチームリーダー 4M 大庭 直樹



私たちは、10月18日(日)に開催されたロボットコンテスト九州沖縄地区大会に参加しました。今回の競技テーマ「輪花繚乱」はロボットによる輪投げでした。全国大会には出場できませんでしたが、チームリーダーとして多くのことを学びました。

その1つは、チームをまとめることの難しさです。この難しさを感じたのは、1年から5年までの全ての意見を集約して、最終的な決断をだし、実行するための的確な指示を出す時でした。部活に入ってから今までの私は、与えられた指示をこなしていくことしか行っていなかったで、特に苦労しました。経験がまだまだ足りないのだと感じました。

最後までリーダーとしての役割を果たせたのかは分かりませんが、協力してくれた部員の皆さん、そして顧問の先生方にはもちろんのこと、応援、支えてくださった多くの方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

Bチームリーダー 3M 梅 弘樹



私がリーダーを務めたBチームは3年生以下のメンバーで構成されました。小さな輪を確実にボールに入れるのが私たちのロボットのコンセプトです。投石器のようなアームで輪を次々に投げ出しました。輪をアームに載せる機構がなかなかうまくいかず、焦って輪を装填して貴重なセンサーを破壊してしまう失敗を何度もしてしまいました。センサーに予備があると思うと作業が雑になってしまうので、予備センサーの残数は制御担当の学生と先生の極秘事項となっていました。本番は落ち着いて作業をすることができ、マシンを壊すことなく競技をすることができましたが、力及ばず初戦で敗退してしまいました。

今年のロボットコンテストは、ここ数年の大会の中でも特に他校のマシンの仕上がりが良く、白熱した競技が繰り広げられました。これから技術を磨き、熱い競技ができるロボットを作っていきたいです。

第26回全国高専プロコン長野大会に出場して

4I 宮崎 大輝

第26回全国高専プログラミングコンテスト(Procon26)は、10月10日(土)～12日(月)に、長野県長野市ホクト文化ホールで開催されました。

プログラミングコンテスト(プロコン)に私は競技部門で出場しました。競技部門は、決められた課題を決められた時間内にプログラムを用いて解き、そのかかった時間と答えの精度を争います。長野大会の競技部門は、指定された敷地に、並べる順番と形状が指定された石を敷き詰めるパズルゲームでした。

大会前日に受付が行われ、長野県に全国から高専生が集まりプロコンが始まりました。会場に向かう道中に高専生らしき私服の学生や、学生服の学生がいて、たかが受付ですが、全国各地にある高専の学生が長野に集まってきたと考え、とてもワクワクする光景でした。

私はプロコンに出場するのが初めてで、右も左もわからないような具合ではありましたが、会場の独特な雰囲気や課題に向かう他校の選手の様子を楽しむことができました。結果を残すことはできませんでしたが、プロコンに出場してよかったと感じました。



専攻科研修旅行

6M 菅 さおり

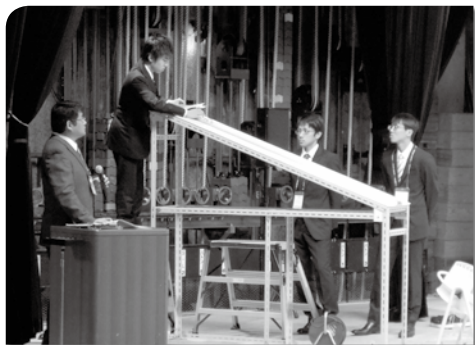
11月26日(木)、27日(金)の2日間、私たち専攻科1年生は研修旅行に行きました。目的地はダイハツ九州(株)久留米工場、天領日田・豆田町、サッポロビール(株)九州日田工場、オムロン太陽(株)、大分県立美術館、JRおおいのシティでした。

今回の研修では工場だけでなく美術館や建物の見学も含まれており、普段自分たちが勉強している分野とは違うものに触れることで、自分たちの視野を広げることができる研修となりました。また、初めての全学科合同での研修だったので見学中の質問で学科の特色の表れた質問があり、とても新鮮でした。宿舎ではミーティングやゲームを通じて友情を深めることができ、先生方の普段見ることのない一面も見ることができて思い出に残る研修となりました。



全国高専デザコン AMデザイン部門初出場

5M 片山 徹也



5M 片山 徹也 (左から3人目)、メンバーは5M 上田 陸 (左から4人目)、3M 野原 和人 (左から2人目)

私たちは11月14日(土)～15日(日)に和歌山県で開催された「デザコン2015 in 紀の国わかやま」のAMデザイン部門に出場しました。今回で2回目のテーマとなるフライング・プレーンは3Dプリンタで造形したプレーンを、傾斜を利用して滑空させ、飛行距離と滞空時間を競うもので全国から25チームの参加となりました。本校は初参加となります。

今回私たちはトンボをモチーフにした2枚羽のデザインで、ウイングレットや上反角を取り入れ、最大限に軽量化した機体で臨みました。結果は19位でしたが、今後の挑戦に繋がる経験を得ることができました。

リリエントール兄弟が世界で初めて有人滑空飛行を行って120年余りとなる現代において、空を飛ぶことに魅了される人類の姿というのを、競技を見て感じる事ができました。人間自らの力では到達することのできない空への挑戦は、これからも永遠に人類の課題であり続けることだと思います。

全国高専デザコン 空間デザインの部で優秀賞を受賞して

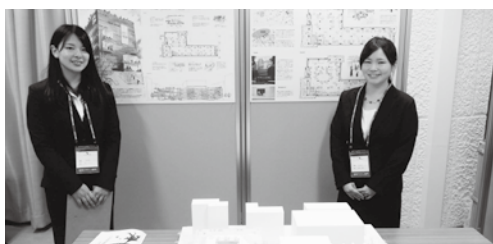
5A 吉川 みくる

私たちは11月に行われた全国高等専門学校デザインコンペティション空間デザインの部に作品を応募しました。課題は「地域強靱化のための道の駅デザイン」というもので、一般的な「休憩機能」や「情報発信機能」の他に「防災機能」にも目を向けながら、道の駅という空間をデザインするものでした。

三栗野さんと私は、都市に点在する立体駐車場に着目し、その空間に道の駅の機能を差し込んで「都市ならではの道の駅」という新しい道の駅を提案しました。この提案では、暗いイメージがある立体駐車場の内部空間が明るく心地よいものになり、立体駐車場の構造上の強さと広さが災害時に避難の拠点として力を発揮できます。

2人で話し合いを重ね、苦勞しながら設計し、完成した作品なので、とても達成感を感じています。また、この作品は全国上位10作品に選ばれ、その中でも優秀賞をいただくことができ、私たちはとても嬉しく思っています。

ご指導くださった先生方、模型製作の際に手伝ってくれた多くの友人や後輩など、力を貸してくれた多くの人々に感謝しています。



冬季球技大会

体育局長 3M 恒吉 いづみ

12月17日(木)に球技大会が行われました。各クラスとも本番に向けて練習に励んでいましたが、今年も残念ながら雨となってしまいました。雨天時競技では、バスケットボール、バレーボール男女、卓球が行われました。3年連続の雨でしたが、どの競技も白熱した試合が繰り広げられ、大いに盛り上がりました。

特に、バレーボールでは2年生同士の決勝となり、フルセットに及ぶ熱い優勝決定戦となりました。

運営面では、前年よりもスムーズな進行で早めに終了できたこと、大きな怪我もなく無事に球技大会を終了することができたことが良い点として挙げられると思います。まだ改善する点は多々ありますが、参加する学生と共に、次回以降も大いに盛り上げていきたいと思っています。



最優秀クラス	4M	
優秀クラス	4I、4A	
	優勝	MVP
バレーボール	2-4	安井 裕人
バスケットボール	5M	原口 竜太郎
卓球	4I	高山 喜八
女子バレーボール	4A	宮崎 由依

新学生会

学生会長 4C 本田 時法

平成28年度 学生会新役員



このたび学生会長になりました4C本田時法です。

私はこれまで学生会というものに関わりがなかったのですが、これまでの学生会の活動は一般の学生との関わりが少ないというイメージを持っていました。ですから、新しい学生会は様々な行事に対して学生会以外の意見やアイデアを取り入れていきます。そして、学生会というものが、

学生皆さんにとってもっと身近な存在になるように努力していきたいと考えているので、皆さんも学生会にどんどん意見を出してください。

また、自分の取柄は「元気」しかないので、皆さんに「今年の会長は元気すぎだろ!」と言われるくらい学生会全体で明るく元気に活動していきたいと思います。

一年間よろしくお願いします。



会 長	4C	本田 時法		
副会長	4 I	溝口 越司	4A	伊藤 大貴
会計局	4 I	新垣 淑陽	3 I	荒木 涼
	3A	中川 智哉	2 I	居石 桃夜
	2C	平野 理歩	1 I	永田 翔
	1A	石川 佳奈		
体育局	3M	恒吉 いづみ	4M	江中 幹弥
	4M	久家 宏紀	4M	段浦 晴樹
	4M	西嶋 涼平	4M	山村 幸大
	3M	奥園 善仁	3M	鬼丸 将
	2M	江藤 康平	2C	山口 杏珠
	1M	永野 英一		
文化局	4M	光延 拓也	3M	川口 拓真
	3C	田中 玲偉	2M	川上 広貴
	2A	鏡池 佳英	2A	永瀬 楓
放送局	3 I	芳仲 正	4A	北口 修伍
	4A	永尾 天十里	3E	柿原 奨
	2E	片桐 南海子	2C	吉行 隆
	1A	田島 やよい		
渉外局	4A	古賀 涼華	4A	城戸 恵李花
	3 I	堤 愛海	2C	渡辺 香織
	1C	浦部 莉奈		
報道局	3C	宮原 萌衣	4M	松永 祐介
	4 I	栗山 太一	2 I	山田 達郎
	2A	江島 早英	2A	水元 ひろえ
	1A	安部 あすか	1A	大山 優衣
整美局	4E	池上 天翔	4A	近藤 将太
	4A	島田 恵豊	3M	山本 隆椰
	3A	城戸 晋之介	2E	松尾 旬祐

学生会役員研修

放送局長 3I 芳仲 正

1月9日(土)に、新旧の学生会執行部役員13名と学生主事室3名の先生方より、学生会役員研修が行われ、昨年度の反省や今後の学生会の方針について話し合われました。初めに旧局長から一年間の反省を、新局長から抱負が述べられて、新旧学生会役員の引き継ぎを行いました。その後、あいさつ運動、連絡の伝達方法、報告会、新規役員の局振り分けについて話し合いました。

あいさつ運動については昨年度も議題として挙がっていたのですが、今回は昨年度と視点が違い、あいさつ運動の必要性について話し合われました。あいさつ運動を実施し得られる効果として、学生会役員の顔を覚えてもらえることにより、体育祭等の準備が円滑に進められるということが挙げられました。しかし、学生会役員があいさつ運動に対して真剣でないことにより、その効果があまり得られてなかったため、今後は局長を中心として意欲的にあいさつ運動に取り組むことに決定しました。

次に、連絡の伝達方法について、昨年度の反省で名前だけの役員がいるということが挙げられたため、今後は会長・副会長から局長へ、局長から局員へとより小規模な範囲に連絡をまわすことによって、その連絡を自分も関係のあること

だと自覚させることに決定しました。

報告会については、昨年度も週に1度の定例会を行っていましたが、体育祭の準備等で忙しくなるにつれて集まらなくなっていたので、今年度は月末に1度と回数を減らし、会長・副会長と局長で集まり報告会をすることになりました。

最後に、新局員の振り分けを行い、新学生会の役員配置が決められました。

今回の研修会ではたくさんの議題について話し合うことができ、とても充実した時間を過ごせたと感じました。

学生会長は、今まで学生会役員としての経験のない本田さんが務めることとなり、これまでと違った視点での改革が行われ、学生会がよりよい方向に進んでいくと思います。今回はその第一歩となるとてもいい研修会だったと思います。



佐世保高専西雲寮の見学

5M 武末 修一

夏休み中(9月2日・3日)に岱明寮の寮生会役員6名と寮務主事室の教員2名で佐世保高専の西雲寮に一泊の見学に行きました。私が宿泊させていただいた棟は新築であったためとてもきれいで、とても快適に過ごすことができました。

新築寮はもちろんですが、新築でない寮も清掃はきちんとしていたことが印象的でした。岱明寮では、清掃の呼びかけをしてもなお、する人とならない人がいます。しかし、佐世保高専は清掃日が設けてあるものの、日ごろから身の回りをきれいにしようという寮生全員の意識があり、居室はもちろんのこと、公共の場は週番が日替わりで清掃するなど

の取り組みがありました。寮生会に関してはとても活発に寮生行事やイベントが行われていました。これは寮生役員数が50人を超えていることや、なにか面白いこと・楽しいことをやろうという気持ちが強いからだと思いました。例えば、夏に行われる納涼祭や、バレンタインデーの女子から男子へのプレゼント、球技大会などが行われていました。

佐世保高専は寮全体が何事にも活発で、全体的に何かをしようという気持ちで溢れていました。岱明寮もこれからまず寮生会から活発に集会などを開き、イベント作成や清掃意識の改善に取り組むべきであると思います。



西雲寮



交流会の様子



夕食風景

予餞会(5年寮生送別会)

4E 丸田 真也

岱明寮では5年生の卒寮に伴う送別会として、1月23日(土)に第一体育館にて恒例の予餞会を開催しました。第一部では、福島校長先生から5年寮生に対するはなむけの言葉をいただき、現寮生の4M光延君と卒寮生代表の5M山田君から挨拶があった後、記念品の贈呈が行われました。

第二部では、在寮生による余興と卒寮生によるスピーチが交互に行われ、寮生会より余興のMVP発表があった後に閉会となりました。

5年生の皆さんの今後のさらなる活躍を期待しています。



記念品の贈呈



5年生によるスピーチ



余興の様子

寮生会役員

(平成28年2月1日現在)

(寮生会の任期は1～12月、棟長・指導寮生の任期は4～3月)

寮長 未定
副寮長 4C 木戸 可純
副寮長 3M 光延 聖太

棟長
银杏棟 5C 上土井 勇輝
紅葉棟 4A 富増 弥希
青葉棟 4C 井手 寛貴
若葉棟 4A 酒村 祐志
桜棟 5C 佐藤 奏月

局長
局名 4A 宮島 良介
局計 4E 丸田 真也
局整 4M 山田 紘
局美 4A 井上 勝夢
局報 4A 石橋 一輝
局道 4M
局食 4M
局給 4M
局管 4M

男子指導寮生

4M 石橋 一輝
4C 井上 雄太
4A 酒村 祐志
3M 中島 英樹
3E 襲川 健汰
3E 矢加部 大地
2A 嘉村 孝弘

女子指導寮生

4C 木戸 可純
4A 太田 早紀
4C 有働 紗里
4C 田竈 聖夜



有明次世代科学クラブ成果発表会

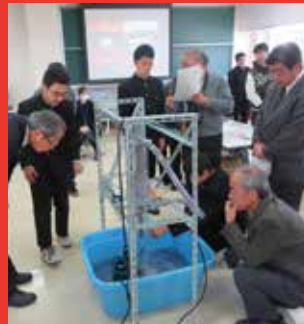
M科 坪根 弘明

今年度、緒方記念科学振興財団の助成を受けて継続実施している“環境問題の解決を担うエリート科学者養成プログラム『有明次世代科学クラブ』”では、12月25日(金)に本校の合同講義室にて平成27年度の成果発表会を開催しました。今年度は6名の新メンバーを加えた合計12名の中学生や本校専攻科生とともに、『海苔分離装置の実用化』について研究活動を進めました。今年は2班に分かれて、それぞれポンプ利用型と簡易型の2種類の装置について実験や開発を行い、実際の海苔生産工場における廃水処理の実地調査も行い、当初の狙い通り微細な海苔の分離が可能であることを確認できました。

成果発表会では、中学生達がポスターや実演による説明やプレゼンをしっかりと行ってくれました。お世話になった関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。また、今後も本科学クラブの活動にご協力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



パワーポイントによる口頭発表



装置の実演による説明

理系ゴコロ講習会

7C 平山 茜

12月12日(土)に第6回理系ゴコロ講習会が開催されました。今年は近隣の中学校から6名の女子中学生が参加しました。午前の部では本校A-Tech.メンバー指導のもと、クリスマスカードや家型のクリスマスオーナメントを作製しました。午後の部では、最初に、本校女子学生による学校紹介を行いました。次に、2名のOGの方から、取り組まれている仕事の内容や高専の魅力についてのご講演をいただきました。座談会では本校女子学生や中学生からの質問に丁寧に答えていただきました。

今年はA-Tech.メンバー以外の子女子学生も多数参加してくれました。今後とも是非多くの女子学生に参加してほしいと思います。



第10回エレクトロニクス・ものづくり体験教室 (楽しいロボットプログラミング ―情報システムを操ろう!―)

I科 石川 洋平

12月5日(土)電子情報工学科の恒例行事である第10回エレクトロニクス・ものづくり体験教室を開催しました(参加者13名、保護者12名、合計25名参加)。

午前中はIchigoJamによるソレノイド制御と電脳サーキットによる電子回路講座、午後はライントレーサー製作とプログラミングをTA(5年生、専攻科1年生)主体で行いました。午前中のプログラミングと電子回路を組み合わせたマイコン制御は、2006年からの連続10年開催を記念した初めての試みでしたが、参加者・保護者共に満足してもらえたようです。

本教室は、昨年に引き続き電子情報通信学会九州支部との共催、大牟田市教育委員会の後援を受けて開催しました。



編集後記

広報室 中野 聖也

2016年に入り、2020年の東京五輪まであと4年となりました。

五輪が行われているとき、みなさんは有明高専で、もしくは就職などで旅立った先で、どのような生活を送っているのでしょうか。

私は2020年、28歳・社会人6年目となり、現在とは違う部署で仕事をしていると思いますが、今と変わらずへらへらしている中に、ピシッとする一面を持っている「はず」です。

そんな私でも、学生時代から笑顔とポジティブ思考を心がけているので、2020年になってもそれだけは変えずにいたいと思っています。

「継続は力なり」ですので、学生のみなさんも、これから就職などで環境が変わっていくと思いますが、これだけは変えない!というものをもって日々過ごしてみてください。

有明高専だより 第148号

平成28年2月16日

編集：有明高専広報室

発行：有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を
-Here are Lights-

